

250 字のつぶやき大募集！



2024年度 仕事とキャリアのアーカイブ構築事業
第10回「仕事のルビー 働くサファイア」
～働く私を動かした言葉や出来事～

第 10 回

「仕事のルビー 働くサファイア」

～働く私を動かした言葉や出来事～

入選作品発表

当 NPO では、「仕事とキャリアのアーカイブ構築事業」として、職業キャリアに関する 250 字の投稿企画である第 10 回「仕事のルビー 働くサファイア ～働く私を動かした言葉や出来事～」を募集し、応募作品 310 点の中から入選作品 4 点を決定しましたので発表いたします。

《ヒジャブと私》が キラリしごと大賞 に！

【募集概要と応募結果】

■企画趣旨 わが国では、総務省統計局の発表によれば 2025 年 3 月現在 6,949 万人の人々が働いていますが、働く人一人ひとりの職業キャリアには、必ず**キラリと光る言葉や出来事**があったはず。それを 250 字の投稿によって、働くことの意義や仕事のやり甲斐を共有し、「仕事とキャリアのアーカイブ」として**集積**し保存していくことを目的としています。2016 年以降 9 回実施し、いずれの年も専門誌やWEBサイトに掲載されるなど反響を頂いており、この度第 10 回の募集をいたしました。

なお、第 3 回からは「障がいのある人としごと～懸命に働く ともに働く～」をテーマとする「ガーネット賞」を株式会社イフの協賛のもとスタートしております。

■募集内容 働く私を動かした言葉や出来事に関する 250 字のつぶやき
テーマ例：「仕事で励まされた一言」、「仕事で転機になったこと」等

■表彰 「キラリしごと大賞」（1 名）：賞状と副賞（3 万円図書券）、「サファイア賞」（1 名）：賞状と副賞（1 万円図書券）、「ルビー賞」（1 名）：賞状と副賞（1 万円図書券）、「ガーネット賞」（1 名）：賞状と副賞（1 万円図書券＋イフ賞 1 万円クオカード）

■応募数：310 件（男 111 女 195 自由記入 4）

■応募年齢：10 代から 80 歳以上まで。職業も医師、保育士、看護師、教員、公務員、作業員、ピアノ講師、会社員、退職後主婦、定年後の方、パートアルバイト等様々。

■選考 2025年2月28日（金）に応募を締め切、4月10日（木）に認定NPO法人キャリア権推進ネットワーク選考委員会による選考を行いました。

■選考委員：委員長／諏訪康雄理事長

副委員長／菊池桃子理事（女優・戸板女子短期大学客員教授）

委員／当NPO理事及び担当部長、（株）イフ 川崎芳清社長

■主催 認定NPO法人 キャリア権推進ネットワーク

2025年6月12日
認定NPO法人キャリア権推進ネットワーク
〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目2番14号 新槇町ビル別館第一
理事長 諏訪康雄
お問合せ先 広報部長 川野晋太郎（090-6954-1270）
Email : info@career-ken.org
URL : <http://www.career-ken.org/>

【認定NPO法人 キャリア権推進ネットワークについて】

当NPOは、働く人々が希望する仕事を自ら選択し、仕事を通じて幸福を追求する権利である「キャリア権」の理念を広く社会に普及、浸透させることを目指して平成25年4月に発足し、そのための諸活動に取り組んでいます。

グローバル化、知識化する現代社会においては、働くために求められる新たな知識、技術、技能を習得する必要性が一層高まっており、また、人口、労働力の減少、高齢化が加速するなかで社会の活力や産業企業の競争力を維持、向上していくためには、働くことを希望するすべての人々が意欲に溢れて働くことができ社会を支える側に立つてもらえるようにすることが何よりも重要です。

性別、年齢、障がいの有無などにかかわらず誰もが十分な職業能力を身につけることができ、その能力が高く評価される社会、会社が変わってもそれまでの経験や知識、技術、技能が正当に評価される社会、職業生活の全期間を通じて一人ひとりのキャリアが断絶することなく可能な限り継続できる社会の実現を当NPOは目指します。

このため、企業には人事に当たり社員のキャリアの形成、展開に配慮されること、行政には雇用、教育等の政策の立案、推進においてキャリア権の尊重、保障を考慮すること、司法には労働関係の裁判、審判においてキャリア権の理念が浸透することを目指して、働く人々、企業、労働組合、学校、行政、志を同じくするNPO等と幅広く連携し効果的な活動をしています。



第10回 仕事のルビー 働くサファイア ～働く私を動かした言葉や出来事～ 入選作品

■キラリしごと大賞

ペンネーム ホルモンくん 様 中四国在住 40歳代

「ヒジャブと私」

職場の病院職員食堂にヒジャブを身に付けた女性達がやってきた。
インドネシアから研修生だそうだ。彼女達が券売機の前で困る様子を見かけた。
メニューは漢字表記、上司に相談すると「あの人達はいよいよとなればマック行くから」とつれない返事。目の前にいる人を喜ばせなくてどうすると私のやる気に火がついた。
英語のメニューを勝手に作り、豚肉及びラード使用の物には豚の絵を描いた。
上司に差し出すと「本場のナシゴレン教えてもらって提供したいね」券売機に引っ掛けてくれた。頑張る彼女達の笑顔が見たい。勇気をありがとう！

<ご本人コメント>

素敵な賞をいただき光栄です。病院の職員食堂という場所柄、昼の職場はまるで戦場、食べに来られるお客様は病院職員の方。あまりの忙しさに緊張を強いられる環境から休憩されるお客様に喜ばれる食事を提供できているだろうか思い悩むこともしょっちゅう、無愛想なお客様に対面した日は自分に笑顔が無かったからではとハッとさせられることもあります。元気はもらうものではなく自家発電させるもの、一日を笑顔で働くのを自分自身と約束し頑張ります。ありがとうございました。

■ルビー賞

吉塚 有佑 様 関東在住 20 歳代

「頑張りすぎているあなたへ」

「置かれた場所に咲いてくれ。咲き続けると疲れるからたまには枯れてもいいぞ」
これは、私が精神的に病みかけ、前職を辞める際にある上司から送られた言葉です。
「たまには枯れてもいい」この言葉が当時無職になった私にとって励ましの言葉になりました。
今は枯れていても、次の花を咲かせる準備期間にすれば、この辞職は失敗ではなく、
次への必要な時間と考えを改めたのです。
無職になった自分を蔑んでいましたが、この言葉のお陰で、前に進むことができました。
だから次は私が、日ごろ頑張るあなたにこの言葉を送ります。

<ご本人コメント>

この度は素敵な賞をいただき、大変嬉しく思います。
上司の「頑張り」という言葉が憎くなりつつあった当時、頑張り続けすぎてしまった私の結末は
心身の負傷で退職でした。「頑張っていたのに、何で」その思いで悔しく情けなくなっていた時
にもらったこの言葉で私は「頑張る」から解放されました。
生き方は様々で自分のペースで花を咲かせ、枯れてもまた咲けばいい、今はその気持ちで働いて
います。
最後に苦しかったあの一年を支えてくれた周りの方々、そしてもう会うことはできないこの言葉
をくれた前職の上司に感謝申し上げます。

■サファイア賞

ペンネーム アオイソラ 様 中四国在住 60 歳代

「曲がった枝を生かす」

40 代で転勤。

上司の「組織は庭。曲がった枝は切らずに生かす。それぞれの個性が生きて、唯一無二の庭になる」という言葉が私を変えた。

曲がった枝は扱いづらいという思い込みがあった私はドキリ。

ぐると職場を見回すと、強面の方からお局風の方まで・・・。

中堅リーダーとして頑張らないといけないのにやっていけるのだろうか。

しかし、上司に「自分のやりたいことにチャレンジ」と言われ、心がほぐれた。

確かに個性は豊かだったけど、ベクトルが揃うとすごいパワーがあり、楽しく仕事ができる。

個を生かすことを学んだ組織だった。

<ご本人コメント>

このたびは栄えある賞に選んでいただき、心より感謝申し上げます。転勤先で上司からかけられた「曲がった枝を生かす」という言葉は、組織での私の在り方を大きく変えました。個性を尊重し合うことで生まれる力と楽しさを実感したあの経験は、定年を迎えた今も私の心に残っています。今は組織を離れましたが、「個を生かす」は人生のテーマ。その思いを、この作品に込めました。

■ガーネット賞

ペンネーム 祖鞍あいこ 様 関東在住 50 歳代

「精神障害者が居場所を見つけたエピソード」

パティスリーでパティシエ補助として働く私は毎日楽しい。
ケーキのプレートにメッセージを書くシェフ達を見て、毎日誰かの誕生日なのだと思う。
そしてそれに携われていることが嬉しい。
ケーキが並ぶショーケースを覗く人達の目は幸せそうで、
それをケース側から眺められる私はそれだけで有り難いと思う。
障害者枠でこの仕事の求人を見つけた時は、とても嬉しかった。
一般枠雇用で苦労を重ねた努力がやっと報われた。実家に帰る時、社割で店のケーキを買って行く。母は目と舌で味わってとても喜んでくれる。やっとできた親孝行。

＜ご本人コメント＞

この度は、この様な素敵な賞に選んで頂きありがとうございます。
27 歳の時から、統合失調症を患う私がやっと見つけた居場所である職場について書きました。
目には見えない病なだけに、病気を隠して採用されてもそれが続かず、やり場のない悲しみや怒りが入り混じる日々がありました。
「精神障害者」というと、悪いニュースの加害者や、マイナスのイメージが先行するかと思いますが、その繊細さ故を生かして、努力の下に、地道に活躍している人が、世の中にいることを知って頂く機会になれば幸いです。